



ちひろの いろ せん かたち

●2025年6月6日(金)～8月31日(日)

主催：ちひろ美術館

やわらかな色彩で子どもをテーマに描き続けたいわさきちひろ。その絵はなにげなく描かれているように見えて、実は、さまざまな技法や工夫が隠されています。

初期のデザイン

ちひろの最初の絵本である『ひとりできるよ』は、小林純一の詩にちひろが絵をつける形で制作されたため、文の組み込みを意識した色の配置や余白が特徴的です。『食事をする子ども』では机を白くし、その上に文を配置しています(図1)。その後の『みんなでしようよ』『あいうえおのほん』などの初期の絵本でも同様に、絵を文の従とせず、絵と文字が一体に見えるような画面構成がなされています。



図1 いわさきちひろ 食事をする子ども『ひとりできるよ』(福音館書店)より 1956年

雑誌「子どものしあわせ」の表紙絵はちひろが特に大切にしていた仕事でした。1963年の3・4月合併号から、絶筆となった1974年の8月号まで、12年間にわたって150余点の表紙画を描くことになります。3色刷りで印刷された1963年7月号の表紙は、鉛筆と薄墨を使ってモノトーンで原画を描き、背景の色選びや文字の配置もちひろがデザインを行いました。水色とオレンジ色の補色を取り入れ、目を引く画面をつくり上げています(図2)。



線の研究

鉛筆はちひろが最初期から用い、たくさんの表情豊かな線を生み出した画材です。第二次世界大戦後の駆け出しのころに師事していた丸木俊(当時は赤松俊子)から学んだ、自分が引く一本の線にも責任を持つという考え方をもとに、ちひろは線の研究を続けました。1951年に長男・猛を出産してからは子どものスケッチをたゆまず続け、次第にその線はやわらかく、豊かな表情を見せていきました。『となりにきたこ』では、さらなる挑戦として鉛筆で描いた線をパステルで描きなおし、絵本を完成させています(図3)。鉛筆に比べてパステルは繊細な線の表現には適しませんが、よりのびやかで勢いのある線をつかむきっかけとなりました。



図3 いわさきちひろ 怪獣ごっこ『となりにきたこ』(至光社)より 1970年

視点を切り取る・尺度を変える

ちひろは、子どもたちの前景に草花を大きく配置した絵を多く描きました。これは日本画にも見られる構図で、『バラと少女』もこの特徴を持つ作品です(図4)。バラが実際よりも大きく描かれ、少女が花の陰からこちらをのぞくようすが強調されています。右上にあるバラをトリミングして見せることで、画面外にも空間の広がりを感じさせる工夫が感じられます。



図4 いわさきちひろ バラと少女 1966年

現実の見え方にとらわれない大胆な構図もちひろの特徴的な技法のひとつです。

心を映す色

「赤いと思えば赤く塗るし、紫だと思えば紫をつけた。空を黄色くすることもあれば、水を桃色に描いたりもする」と語ったように、特に後期のちひろの絵は、視覚でとらえた色より心で感じた色を表現することに重点が置かれました。「まきばの うし」では牧場を緑にせず、背景いっぱい赤を敷くことで子どもたちの怯えや好奇心が強調されています(図5)。

本展では、いろ、せん、かたちに章を分け、さらに6つのテーマに沿ってちひろの技法にせまります。ちひろの技法をあそびながら見ることのできる、アートユニット plaplax の作品《画机の上のあそび場》(図6)《だあ・いー・あ! ローグ》もお楽しみください。(山本理乃)



図6 plaplax「画机の上のあそび場」 2018年



図5 いわさきちひろ「まきばの うし」 1969年

てなわけで 20 年。 魅惑のチョウ、シタ展

●2025年6月6日(金)～8月31日(日)

主催：ちひろ美術館 後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、信濃毎日新聞社、市民タイムス、abn長野朝日放送、長野エフエム放送株式会社

ちひろ美術館では、2001年より繰り返し長新太の展覧会に取り組み、作品の調査を続けてきました。没後20年となる今年、これまでの研究成果をもとに、幅広い世代を魅了し続ける長新太の魅惑の世界を紹介します。

メクルメク絵本の魅惑

長は、戦後、海外の文化が入ってくるなかでソール・スタインバークなどのひとコマ漫画に憧れ、1949年、新聞の公募に応募して入選、漫画家としてデビューしました。1958年に最初の絵本を手がけ、子どもの本に仕事の間を広がってから、絵本も制作するようになります。

後に、「根底にあるのはマンガです。お話でも、絵本でも、はくの発想の核にはナンセンスやユーモア、笑いがあるんですよ。これだけは人に負けないというようなものは、ナンセンスだとかユーモアなのです」*₁と語っています。意味を持たない展開に大人は驚くこともありますが、おもしろいものには素直に反応する子どもの感性を信頼し、楽しませるために絵本を創作していました。

長が描いた絵本は400冊を超えています。そのなかから、自身が文章と絵の両方を手がけた絵本約10冊を紹介します。

キャベツくんとブタヤマさんが道で出会い、奇想天外な出来事に遭遇する『キャベツくん』シリーズからは2冊を出品します。『キャベツくんのにちようび』(図1)では、ふたりが巨大な招きねこに誘われてついでいくと……、頁をめくると、招きねこやぶたに埋め尽くされた場面が現れます。次は何がどのような形で登場するのか、常識にとらわれない展開に期待がふくらむ絵本です。

ナンセンスを核とした絵本だけでな

く、抒情性のある絵本も描いています。

『トリとボク』(図2)は、主人公のボクだけが知っているひみつが語られる物語。家の近くの川にいるトリたちが、夕方になると身を寄せ合い、ゾウヤクジラを形づくりまします。川をのぞき見るボクの視点で静かに展開する絵本です。「いつも生理的に心地よいものを求めてるんだけど、その心地よさが、ある時には抒情のほうに行くこともあるし、めっちゃうなほうに行く時もあるし」*₂と語っています。このほか、絵日記形式で語られる『くもの日記ちょう』など、豊かな情感をたたえた絵本も紹介します。

長新太の絵本の大きな魅力のひとつは独特の色彩です。ガッシュ(不透明水彩)を用いた作品が多く、大胆な筆致と目の覚めるような鮮やかさが特徴です。

『トリとボク』では、1冊を通して緑を基調に描かれていますが、黄色がかかった緑や青味の強い緑など、場面ごとに色を変え、刻々と変化する夕暮れ時の光を表しています。反射する水面や暗がりて光る鳥の羽には透明水彩を使い透明感のある奥深い色を表現するなど、緑の色幅が美しい作品です。また、『くまさんのおなか』(図3)では、薄いクリーム色を下地に塗り、ピンクの発色を際立たせています。絵としての心地よさを追求した細やかな配慮を見ることができます。

魅惑のいきもの大集合

長新太が描くいきものは、形態や大きさなど意外性に富んでいて魅力的です。絵本には、大きな手の猫に「ギュウッギュウ」とにぎられて頭がおにぎりになったテングザルや、体の一部がキャベツになった巨大なクジラなど、一目見たら忘れられないいきものが登場します。漫

画やカットでは、ひとりで外出するお尻や歩く下半身(図4)も。万物に生命が宿る「アニミズム」について、「僕の場合、根っこの部分にそれが強くあるんですよ。だから、そのへんの石ころひとつにしても何にしても、みんな命がある、精霊が宿っているという考え方で、絵の発想もぜんぶそこから出てくる。それにユーモアをプラスするわけ」*₃と語っています。アニミズムを根源に生まれた不思議ないきものを多数出品します。

制作の裏側もチョコっと紹介

長がアイディアや絵本のダミーをつくる前の場面展開などを描き留めていた手帳(図5)が、当館に13冊保管されています。いずれも片手に乗るサイズで、出版社名などが入ったシステム手帳です。発表する文章の推敲の跡もあり、多くは左から右への縦書きで書かれています。

「『絵の力』とは何か?子どもは見えないものを見る力があるんです」「絵を見て、それからそれへと想像する子どもに助けられているところもある」とのメモもあり、子どもの本の創作に向かう画家の姿を垣間見ることができます。

このほか、絵本のダミーやラフスケッチなど、出版に至るまでの資料を展示し、制作の舞台裏も紹介します。「ナンセンスから意味を求めようというのはナンセンス」*₄と語っていた長新太の世界をご覧ください。(松倉恵美子)

長新太(1927-2005)

東京に生まれる。1949年、東京日日新聞のマンガコンクールに一等入選し、漫画家となる。1958年、堀内誠一の勧めで、最初の絵本『がんばれ さるの さらんくん』を手がける。1959年『おしゃべりなたまごやき』で文藝春秋漫画賞、1981年『キャベツくん』で絵本にっぽん大賞、2005年『ないた』で日本絵本賞大賞をはじめ受賞多数。



図1『キャベツくんのにちようび』(文研出版)より 1992年



図2『トリとボク』(あかね書房)より 1985年



図3『くまさんのおなか』(学習研究社) 1999年



図4『長新太 怪人通信』(大和書房)より 1981年頃



図5 アイディアが描かれた手帳

ちひろ美術館コレクション もようをみよう

●2025年6月6日(金)～8月31日(日)

主催：ちひろ美術館

絵本のなかには、さまざまな「模様」が描かれています。本展では、ちひろ美術館コレクションの作品を、「模様」に注目して展示します。



図1 エリック・カール(アメリカ)『ぼくのねこみなかった?』のイメージ 1972年
Eric Carle, Image from *Have You Seen My Cat?*, 1991. A Collection of The Chihiro Art Museum.
©1971 by Penguin Random House LLC.

模様のある生き物

『ぼくのねこみなかった?』は男の子が大切にしていた猫を探すため、世界中を巡る絵本。紹介する作品(図1)は、探していた猫が見つかった最後の場面をもとに描かれました。エリック・カール(アメリカ)は、自ら模様を手描きした色とりどりの薄紙を大量にストックし、

そのなかから絵に合わせて選んだ紙を切り貼りして、作品をつくりました。“ぼくの猫”が連れているたくさんの子猫を、二つと同じ模様のないオリジナルの薄紙で描き分けています。

縁飾りの模様

縁飾りが印象的な絵本もあります。エロール・ル・カイン(イギリス)の『アラジンと魔法のランプ』では、各場面に豪華な縁飾りが施されています。右の作品(図2)の、大胆に並ぶクジャクの羽はエキゾチックな雰囲気、見るものを異世界に誘います。

茂田井武が挿し絵を描いた小川未明の童話集『月夜とめがね』では、本文を囲む10種類の飾り罫が描かれています。「赤いろうそくと人魚」の飾り罫(図3)では、ろうそくや海藻、人魚など登場するモチーフがデザインされ物語を伝えています。(矢野ゆう子)



図2 エロール・ル・カイン(イギリス)『アラジンと魔法のランプ』(習作) 1981年



図3 茂田井武(日本)『月夜とめがね』(新潮社) 飾り罫 1954年

●活動報告

ファーストミュージアムの取り組み

ちひろ美術館では、絵本は、“人が最初に出会う美術であり文学”、また、“民族や言語の違いを超えて、0歳から100歳以上の人が楽しむことができる文化財”であると考えています。そして、あらゆる人々にとって、人生で初めて訪れる美術館として、優れた美術、芸術を楽しむことができ、そのためのすそ野を広げる美術館として、訪れやすく、親しみやすい場であることを大切に活動しています。あかちゃんや小さいお子さんと安心して過ごせるよう、授乳室や子どもの部屋、多目的トイレなどの館内設備を備えているほか、全館バリアフリーで、車椅子でも利用しやすく設計されています。

2011年からは、「ファーストミュージアム」ということばで、告知するようになりました。

安曇野ちひろ美術館では、2017年から、春と秋の年に2回、0～2歳児と保護者を対象にしたイベント「あかちゃんとおでかけしよう!ファーストミュージアムデー」を開催しています。

今春は、公園の桜が見ごろを迎えた4月12日に行いました。あかちゃん絵本の読み聞かせや、ふれあい遊びを親子で楽しんだ後は、展示室で作品を鑑賞したり、インタラクティブな作品を体験したりと、館内をめぐりながら、ゆったりとした時間を過ごしました。

小さな瞳をきらきらと輝かせて、作品

を指さしながら、まだことばにできない思いを一生懸命、伝えようとするあかちゃん。そんな我が子をやさしく見つめるお母さん。その姿はまるでちひろの絵のようです。

参加者からは、「我が子が絵本の読み聞かせに耳を傾けていたり、ちひろの作品をよく見ていて、びっくりしました。」「家族でちひろの作品を楽しむことができました。泣いてしまうことが心配で、美術館に子連れで行くことをためらってしまいましたが、今回のようなイベントだと安心して参加できます。」などの感想が寄せられました。

松川村保健センターの乳幼児健診で当館が協力している、絵本との出会い事業に参加したあかちゃんとお母さんがお友だちの親子を誘って来てくださったり、毎夏、当館で活動している松川中学生ボランティアのOBがお父さんとして参加してくださったりするなど、うれしい再会もありました。

当館が松川村に開館して、この4月で、28年目を迎えました。さまざまなライフステージで、美術館を訪れてくださる来館者のみなさん、ひとりひとりに寄り添い、子どものしあわせと平和を願った、ちひろの想いをかたちにして伝えていく活動をこれからも続けていきます。

(船本裕子)

「あかちゃんとおでかけしよう!ファーストミュージアムデー」のようす



plaplast <だあ・いー・あ!ローグ>を体験する親子

ひとこと ふたこと みこと



3月18日（火）

ちひろさんの描く子どもたちの絵から、平和への祈りが強く感じられました。戦争について、改めて考えさせられました。

長野の大学生

3月20日（木）

昨年8月6日、午前8時15分広島相生橋に行きました。娘が平和記念式典に参列させていただきました。あの暑さのなか、上空からリトルボーイが落下。思わず空を見上げ身震いしたのを思い出しました。

3月23日（日）

『バラライカねずみのトラブル』の絵に会えて、驚きと感動です。『てぶくろ』も。出会いに感謝。

3月27日（木）

なにもいわず、いろいろなことを

考えることなく、手をそっと差し出せる世の中になればいいなと思いました。文章と絵に涙がこぼれそうになりました。

3月31日（月）

いわさきちひろさんの絵のなかの瞳の奥に映る今を考えさせられました。

4月18日（金）

今日は春を通り越して、初夏の陽気です。桜が満開で鳥たちがごきげんに鳴き唄い、緑は初々しい光の色です。“今”このときに、こんなしあわせな場所から戦火の人々の平穏を心から願わずにいられません。どうか、みなが心ひとつに手と手をつなげる日が来ますように。

4月29日（火）

丁寧に描かれているからこそ伝わ

る悲しさや苦しさ、人が人に対して大切に思う、特に親が子を想う愛しさが、繊細に伝わってきました。（中略）将来絵を描く仕事がしたいと思っています。いわさきちひろさんのような、見る人になにかを伝えられるような人になりたいです。うしおまりこ

5月3日（土）

《だぁ・いー・あ！ローグ》が楽しかったです。《シデロイホス》も見たことがない楽器でびっくりしました。

5月5日（月）

子どもの日に来られて……よかったです。ここに来るたび、ちひろさんの願った“世界中の子どもたちがしあわせな毎日を過ごすことができますように……”を切に思います！

美術館 日記



3月1日（土）☀

昨年至光社で発見されたちひろの原画32点のなかから11点を初公開。ニュースにもなったため、お客さまから「新しく見つかった原画はどれかしら？」とお声がかかる。ニュースを見て、楽しみにご来館くださったそう。

4月3日（木）☔/☀

明石市立文化博物館（兵庫県）にて、「いわさきちひろ×plaplaix あれこれいのち」展が始まる。昨年開催した没後50年の企画展をベースに、ちひろの作品とともにplaplaixの《あちこちスケッチ》、《絵の具の足あと》などが楽しめる。4月12日には企画協力の鷺谷いづみ氏の講演会も開催された。

4月14日（月）☁/☀

安曇野エリアの桜が咲き始め、ち

ひろ公園の桜も見事な満開に。カフェから見える桜は、30年近く経ち樹形も美しく育った。休憩時間にはこの桜の下でお昼を食べるスタッフも多い。この日訪れたイギリスからのツアーの方々、帰りぎわに公園をゆったり散策しながら、お花見を楽しんでいた。



4月18日（金）☁

20時過ぎに長野県北部を震源とする最大震度5弱の地震が発生。松川村近辺はその晩、不気味な地鳴りとともに余震が続いたが、さいわい美術館には被害がなく、翌日の開館記念日も通常開館。2日前

の休館日に避難訓練を行ったばかりだったため、改めて「常に備える」ことの重要さを実感する。

4月23日（水）☁

絵本でつなぐ「へいわ」展に関連して開催中のワークショップ「想いをつなぐ にじみのガーランド」が人気。「あなたにとってへいわとは？」「へいわをかんじるときは、どんなとき？」の問いかけに、多くのガーランドが集まる。覚えてたてのひらがなで書かれた「ママがやさしいとき」。幼い子どもの生きる世界のなかでの「へいわ」が伝わる。「おはようおやすみ いただきます ごちそうさま ごめんなさい いってきます ただいま またあした、を、あたりまえに言えること。」争いが止まぬ今の世界の現状に思いをはせ、心に響く。

風

Vol.12

旬なできごとをピックアップしてお届けします

「戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ『へいわ』展（安曇野2025.3/1～6/1、東京7/26～10/26）」では、ちひろ美術館が選んだ約200冊の「平和を考える絵本」をご紹介します。



安曇野展示風景

この選書は、戦後の食糧難について山の動物たちにメッセージを託して描かれた『山のもの山のもの：系ほん』（初山滋作、1946年、白鷺社）や、原爆の惨状をありのままに伝える『ピカドン』

（丸木位里、赤松俊子作、平和を守る会編、1950年、ポツダム書店）など、戦後絵本の出発点と呼べる作品から始まります。

年代順に並べてみると、GHQの検閲により、戦争をテーマにした絵本の出版がほとんどなかった戦後間もない時期と比べて、1970年代以降は、平和を考える絵本の出版が多くなっていくのがわかります。近年では、現在世界各地で起きている紛争や、難民、子どもの権利など扱うテーマも広がり、海外の絵本が国内で翻訳出版される例も増えています。

展示会の企画段階では、絵本の冊数も分類するテーマも、展示室の壁に収まりきらないほど増えて

しまいました。それほど絵本は、たとえ戦争を直接のテーマにしていなくても、それを読む子どものしあわせと平和を願ってつくられており、私たちが平和を考えるきっかけとして大切なものであることが感じられました。

たとえば、『となりにきたこ』（いわさきちひろ作、武市八十雄案、1970年、至光社）のような、友だちとの仲直りや、ひとと分かち合うことを描いた絵本も、平和につながるヒントを与えてくれるでしょう。

ぜひ、世界の絵本画家たちが思いをつないできた絵本を通して、平和について考えてみませんか。（川澄祥）

●次回展示予定 2025年9月5日(金)～11月9日(日)

〈展示室1・2〉

ちひろ 本を読む人 描く人

ちひろは幼いころからさまざまな本を読み、戦後子どもの文化として児童書や絵本が発展していくなかで画家として活躍しました。彼女の若いころの読書体験で得た感動は、その制作にも結実しています。本展では「本」を読むこと、描くことについて、ちひろの絵や絵本を通して考えます。

〈展示室3〉

ちひろ美術館コレクション
生誕220年 アンデルセンの絵本



いわずさきちひろ
本を抱える少女 1970年

〈展示室4〉

ヒロシマ🍅トマト つかさ おさむ 司 修 展

幼少期を戦争のなかで過ごした司修(1936-)は、戦中戦後に刻まれた生々しい記憶を原動力としながら、問題意識を抱えて折々に感じるものを表現し続けてきました。その表現は絵本や絵画にとどまらず、本の装幀、小説、批評など幅広いジャンルに及びます。本展では、広島原爆を描いた『まちゃんと』(松谷みよ子文 偕成社)を核として、初期から近作までの司の作品を紹介します。



司修『まちゃんと』(偕成社)より 1983年

安曇野ちひろ美術館イベント予定 各イベントのご予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館イベント担当へ。

掲載内容は予告なく変更する場合があります。最新情報につきましては、公式サイトをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

TEL.0261-62-0772 chihiro.jp



〈展覧会関連イベント〉

●チョウ・シンタだらけの絵本のじかん



長新太『ゴムあたまボンたろう』
(童心社)より 1980年

○日時：6月7日(土)・7月5日(土)
11:30～12:00
○参加費：無料(入館料別)
○定員：20名
○申し込み：不要
長新太の絵本の読み聞かせを行います。あかちゃんから大人まで、どなたでもご参加いただけます。

●ギャラリートーク

○日時：6月21日(土) 7月19日(土) 8月16日(土)
14:00～ちひろ展 14:30～長新太展
○参加費：無料(入館料別) ○定員：20名 ○申し込み：不要
開催中の展覧会の見どころを学芸員がわかりやすく解説します。

●中学生ボランティアがこの夏も活動します

地元松川村立松川中学校のボランティアが夏休み期間中に、絵本の読み聞かせや展覧会の魅力を伝える活動を行います。活動内容は、公式サイトをご覧ください。



〈会期中のイベント〉

●ちいさなおはなしの会
at 絵本カフェ

○日時：6月14日(土)
11:00～
○参加費：無料(入館料別)
○定員：20名
○申し込み：不要
絵本カフェにて絵本の読み聞かせを楽しみましょう。

●ちひろ忌
松本猛ギャラリートーク

○日時：8月8日(金)
14:00～14:30
○参加費：無料(入館料別)
○定員：20名
○申し込み：不要
ちひろのひとり息子である松本猛(ちひろ美術館・常任顧問)が、展覧会の見どころや母・ちひろとの思い出を話します。

●ちひろ忌



いわずさきちひろ ひまわりとあかちゃん 1971年

○日時：8月8日(金) 9:00～17:00
2025年8月8日、いわずさきちひろ(1918～1974)がこの世を去って、51年目の夏を迎えます。当日は、ちひろが生涯願い続けた世界中の子どもたちのしあわせと平和への思いをご来館のみなさまと分かち合う一日にします。この日ご来館の方に、ちひろのこぼれ言葉を差し上げます。

●夜のミュージアム

○日時：8月23日(土)20:00まで開館延長
夕暮れどきからライトアップされた幻想的な夜の美術館(設計：内藤廣)で、ゆったりとした時間をお楽しみください。ちょっとこわいおはなしの会や安曇野ちひろ公園で「トットちゃんの肝だめし」も開催します。この日、浴衣でご来館の方には、絵本カフェドリンクチケットorショップ10%OFFチケットをプレゼントします(カフェは19:00閉店)。



撮影：中川敦玲

安曇野ちひろ公園 イベント

●おでかけホリデー

○日時：5/24(土)・6/28(土)
・9/27(土)・10/25(土)
10:00～15:00
食体験やおさんぽ会、マルシェなどを開催します。

●7月26日(土)
トットちゃんの夏祭り

●8月23日(土)
トットちゃんの肝だめし

※雨天・天候不良の場合は中止させていただくこともあります。
安曇野ちひろ公園 Tel.0261-85-8822/chihiro-park.org

●開館情報

○開館時間：10:00～17:00 ※7/19～8/31は9:00～17:00
○休館日：水曜日(祝休日は開館、翌平日休館) ※7/19～8/31は無休

CONTENTS 〈展示紹介〉ちひろの いろ せん かたち…②／てなわけ20年。魅惑のチョウ、シンタ展…③／ちひろ美術館コレクション もようをみよう…④ 〈活動報告〉人生で初めて訪れる美術館 ファーストミュージアムの取り組み…④ ひとことふたことみこと／美術館日記／風…⑤

美術館だより NO.117 発行 2025年5月23日

安曇野ちひろ美術館

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24 TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774